

事前意見調査

1, これまでに出たご意見（具体的な研究事項について）

第1回会議～第3回会議でのご発表とご発言を受け、具体的な研究事項として、下記の項目を抽出させていただきました。第4回会議以降、具体的研究事項に議論を進める際の原案として、下記に対して項目の追加、詳細の追記、文案の修正、項目の統合などについて、ご意見をいただけないでしょうか。①～⑧の項目立てに関するご意見もいただければと思います。

※下記に見え消しをお願いいたします。

※事務局にて①～⑧に分類

① がんの予防法や早期発見方法の実用化を目指した研究

○内的、外的な発がん要因のエビデンスの創出

（祖父江構成員、野田構成員、上田構成員）

○炎症性マーカー、発がんリスクマーカー、早期診断マーカーの同定

（野田構成員、上田構成員）

○ゲノム科学・バイオマーカー研究等の進歩の活用による発がん高危険度群の特定

（吉田参考人・山本参考人）

○がん予防に関する高精度エビデンスの創出のための臨床研究

（野田構成員・吉田参考人・山本参考人）

○がん予防の実用化のための大規模介入研究の実施

（田村構成員、祖父江構成員、吉田参考人・山本参考人、上田構成員）

○既知のがん予防対策（たばこ・感染）の普及推進戦略に関する研究

（祖父江構成員）

○新たな検診手法など早期発見ツールの評価研究

（眞島構成員、吉田参考人・山本参考人）

○がん検診の精度管理・受診率向上施策に関する研究

（野田構成員、祖父江構成員）

○超早期診断に資する画像検査に活用できるバイオマーカーの探索研究

（小松構成員）

② 小児がんの特化した研究

- 小児がんのリスク層別化による治療開発のための遺伝子診断法の実用化
- 難治性小児がんに対する治療開発研究の推進
- AYA世代がんの治療開発 (ここまで石井構成員)
- 小児がんの原因や生物学的特性の研究
- 疾患登録や晩期合併症等を含む疫学的研究
- 標準治療開発の推進
- ドラッグ・ラグ解消へ向けた研究 (ここまで吉田参考人・山本参考人)

③ 高齢者に対するがんの治療法、支持療法開発に関する研究 (高齢がん患者の増加を前提としたエビデンスの確立)

- 高齢者のがん医療・介護ニーズの把握 (真島構成員)
- 高齢者のがんの特徴の解明
- 包括的高齢者機能評価を用いた高齢者がん薬物療法アルゴリズムの開発
- 高齢がん患者にも安全で効果的ながん治療、支持療法の開発
(ここまで田村構成員、吉田参考人・山本参考人)
- 高齢者のリスクを考慮した局所治療の最適化 (吉田参考人・山本参考人)
- 高齢がん患者に対する必ずしも治癒を目指さないがん治療と療養生活支援のあり方に関する研究 (祖父江構成員)
- 在宅医療の在り方、医療経済学的評価に基づく政策立案、がん医療供給体制の再構築などに関する医学・社会学領域を含めた総合的検討
(吉田参考人・山本参考人)

④ がんの診断と治療に関する革新的な薬剤、医療機器の実用化に関する研究

- 細胞・分子レベル、個体レベルでがんの本態や治療応答性に迫る研究
(田村構成員、吉田参考人・山本参考人)
- がんの腫瘍内多様性、可塑性を規定する新規バイオマーカーおよび新規分子標的の同定
- 変異遺伝子機能解明
- ゲノム及びエピゲノムによる転写調節機構の解明
- がん幹細胞の機能解明と標的の同定 (ここまで野田構成員)
- がん幹細胞、がん微小環境、循環腫瘍細胞などの新しい概念の実証とがん治療への応用研究の推進 (上田構成員)

- 低侵襲治療に資する画像診断に関するバイオマーカーの探索研究
(小松構成員)
- がん細胞特異的な分子プローブ創製研究の推進 (上田構成員)
- 分子イメージングから直截に治療を進める画像診断と治療の融合
(theranostics) の開発研究 (上田構成員・米倉構成員)
- がん治療効果判定に関わる分子イメージング研究の推進
- アカデミア発のイノベティブながん医療シーズ育成の継続的な推進
(ここまで上田構成員)
- 有望シーズに対する重点的なTR研究 (野田構成員)
- がんの本態を衝く画期的診断法・本態標的治療法の実用化を目指した橋
渡し研究 (吉田参考人・山本参考人)
- 日本発のがん診断薬、治療薬、医療機器の実用化を目指した臨床試験

- 国際標準治療薬の導入を目指した臨床試験 (未承認薬や適応外薬)
(ここまで眞島構成員)
- ゲノム及びエピゲノム解析を組み込んだ個別化治療の実現を目指した臨
床試験の実施 (野田構成員・上田構成員)
- バイオ医薬品等の分子標的薬を中心としたがん治療薬とコンパニオン診
断薬の開発研究 (野木森構成員)
- がん免疫療法の開発促進 (上田構成員)
- 樹状細胞療法・がんペプチドワクチンの開発研究 (田村構成員)
- 画像誘導低侵襲治療を実現する医療機器開発 (小松構成員)
- iPS細胞を応用した、薬剤の細胞内代謝や毒性、薬剤による障害を受けた
組織の回復に関する研究 (田村構成員)
- 先端手術(ロボット、鏡視下手術)や高度放射線治療(重粒子線を含む
粒子線治療、強度変調放射線治療等)の次世代医療を目指した医療機器
の研究強化 (上田構成員・米倉構成員)
- 放射線損傷・修復メカニズムの機序解明と、その知見に基づく新たな治
療技術、医療機器開発研究等の推進 (上田構成員)

⑤ 標準治療の効率的な開発と標準治療の普及に資する研究

- 局所治療の根治性・適応に関する、がん細胞生物学的・理論的基盤の強
化
- 外科治療の軽量化・低侵襲化のための研究
- 再生医療等の導入による再建技術の高度化

- 先端技術を用いた放射線治療の高精度化と新技術開発
(ここまで吉田参考人・山本参考人)
- 集学的治療確立のための臨床試験の実施 (田村構成員)
- 分子標的薬剤の併用療法臨床試験の実施 (野田構成員)

⑥ 希少がんや難治性がんなどの特定重点分野に特化した研究

- 希少がんに対する治療開発研究の推進
- 家族性がんに関する情報集積と早期発見・治療の実現に関する研究
(ここまで眞島構成員)
- 希少がんの原因や生物学的特性の研究
- 標準治療開発の推進
- ドラッグ・ラグ解消へ向けた研究 (ここまで吉田参考人・山本参考人)

⑦ がんやがん治療に伴う症状・徴候・臓器障害とこれらによる苦痛の軽減をめざした研究や、栄養療法、リハビリ療法をはじめとする支持療法に関する研究

- がんに伴う症状・徴候、がん治療がもたらす有害事象（悪液質、疼痛、悪心・嘔吐、脱毛、皮膚・粘膜障害、骨髄障害、神経障害、臓器障害等）のメカニズムを解明し、その改善のための創薬、医療機器開発、理学療法の開発 (田村構成員、眞島構成員)
- 晩期障害への対応を含めた、がんサバイバーが長期的に健康を維持するための研究 (眞島構成員)
- がん患者の栄養療法やリハビリ療法に関する研究
(田村構成員、眞島構成員、吉田参考人・山本参考人)
- 患者が自ら実施できる再発予防法の開発と普及
- 患者の希望やライフスタイルに沿った終末期医療や緩和医療に関する研究
(ここまで吉田参考人・山本参考人)

- ⑧ がんにつきあう医療提供体制と社会環境や、がん教育を含めた、がんに関する適切な情報提供体制の確立に関する研究など、政策につながる研究
- 働く世代に対するがん医療アクセスや就労支援、地域での療養生活支援等、がん患者とその家族を包括的に支援する体制の開発研究

 - 高齢化社会に対応し経済的視点を含めた日本型がん医療モデルの構築と国際展開 (ここまで堀田構成員)
 - 高齢化社会におけるクラウド型医療機器を活用した在宅がん医療の高度化に資する研究 (小松構成員)
 - 現場に負担の少ない教育手法の確立、教育/提供情報レベルの標準化に資する教育モデルの設定と試行 (西山構成員)
 - がん登録情報の精度管理の向上に関する研究 (野田構成員)
 - がん登録データの利用促進に関する研究
 - がん情報提供・相談支援に関する研究
 - 個別のがん対策における実施体制や目標達成度の評価に関する研究 (ここまで祖父江構成員)

その他

- iPS細胞、ゲノム医学、バイオマテリアル、DDS、集団遺伝学等の考えを導入することによる、適切な融合研究領域 (上田構成員)

2. 成果をあげるために必要な基盤、仕組みについて

研究成果をあげるために必要な仕組みについて、具体案があれば下記に記載いただけないでしょうか。全ての研究項目（①～⑧の項目）に関わる仕組み、上記の研究項目別に求められる仕組み、に分類しご意見をいただければと思います。

（記載例）

【対象項目】

①がんの予防法や早期発見方法の実用化を目指した研究

【必要な基盤、仕組み】

がんの個別化予防や新たな検診手法の実用化を目指した前向き大規模追跡研究を行うため、対象者の補足と追跡（発がん後の医療の受給状況もきっちり追跡把握）、データ管理などを行う施設を、がん診療連携拠点病院を対象として全国10カ所程度設置し、介入研究や観察研究を効率的に行うことができる体制を整備する。